

# 鉄道ピクトリアル

2021年11月号 Vol.71 No.11 通巻No.992

(特集)常磐線複々線50年

■表紙 行き交う常磐線快速電車と緩行電車……………三島 達夫  
金町 2021-8-1

## ■グラフ

次の半世紀へ向かって (1~8ページ)

河原慶明・藤澤 学・関根敏男・長谷川優一・辻阪昭浩  
……………佐藤 博・太田正行・飯塚卓治・長谷川 明・三ッ谷政久  
杉崎健一・長谷川智紀・羽賀元彦・関 周一

昭和47年3月常磐線(上野—取手間)線路一覽略図

……………所蔵:三宅俊彦… 28

常磐線複々線区間ウォッチング 綾瀬—取手間全14駅+北千住

……………進藤 匡・高瀬智嗣ほか… 30

複々線化前後の常磐線近郊区間

……………写真:山田虎雄・沢柳健一・新井由夫ほか… 40

新設3駅の開業当時のきっぷ……………長谷川優一… 44

\*

Pictorial Color Gallery レトロモダン221……………大兼政成広… 75

京都市交通局烏丸線20系/相模鉄道21000系/JR東  
日本東北・日光線用E131系600番代/J京葉臨海鉄道  
DD200形が稼働開始/J京阪電気鉄道5000系ストラ  
ン/えちごトキめき鉄道ET127系に「新潟色」ラッ  
ピング車登場/しなの鉄道横須賀色115系が引退ほか

78~80  
88~89・95

トピック・フォト(各地・関東・中部・関西)…………… 81

旧太子駅ホッパー棟が国の登録有形文化財に登録される

……………野口 俊彦… 90

「梅小路配給」に見るJR西日本の国鉄形機関車……………山中 茂… 92

神戸電鉄旧入換車「101号車」の修繕工事……………米倉裕一郎… 94

連載・昭和の鉄景(第59回)……………椎橋 俊之…119

## ■本 文

今月の話題:常磐線複々線50年……………編 集 部… 9

常磐線発展の軌跡—昭和30年代以降の輸送改善を振り返る—

……………佐藤 信之… 10

常磐緩行線・快速線50年間の運転体系と運用車両の変遷

……………小樽 宏明… 46

常磐緩行線103系1000番代—波乱含みの車歴を追う—〔前編〕

……………芳田あきら… 61

\*

鉄道の話……………編 集 部… 45

JR東日本E257系転用改造・機器更新の概要……………吉田 勝博… 96

書評(680)「漱石と鉄道」……………三木 理史…103

鉄道技術との60年①—イギリス滞在とスイス訪問—……………曾 根 悟…104

雄別鉄道C11 65と僚機……………高見 彰彦…108

神戸電鉄旧入換車101号車 修繕工事竣工までのあゆみ

……………米倉裕一郎…112

令和3年大雨等による鉄道被害の概況……………編 集 部…117

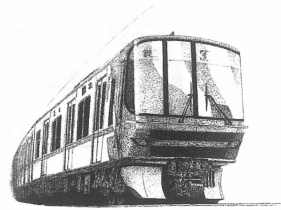
8月のメモ帳……………120

読者短信・情報ファイル……………121

後部車から……………124

ISSN0040-4047  
Tetsudō pikutoriaru

今月の話題



カット:山本茂樹

## 常磐線複々線50年

1950年代、戦後の混乱・復興がようやく落ち着きつつあったものの、経済成長とともに東京圏の人口は著しく増加し、国鉄各路線では通勤輸送の混雑が激化、社会問題としてクローズアップされていた。こうした中で、国鉄は総体的な輸送力増強、近代化を目指して1957(昭和32)年度に第1次5カ年計画を打ち出し、東京圏の通勤輸送では編成長の増大、時隔短縮、車両の増強を進めていった。この計画はその後1961(昭和36)年度から第2次、1965(昭和40)年度からは「第3次長期計画」に改訂され、東京圏では抜本的な通勤・通学輸送の改善がスタート、いわゆる「5方面作戦」として、都心部から5方面に延びる東海道、中央、東北、常磐、総武の通勤5路線を中心とした複々線化などの路線増強・改良が行われた。常磐線の複々線化事業はそうした経緯により工事が進められたのである。

常磐線国電区間は、上野—取手間であるが、このうち綾瀬—我孫子間(1982年には取手まで)が1971(昭和46)年4月に複々線となり、今日に至る通勤ルートが築かれた。在来の上野始発・終着電車は北千住—我孫子間で快速運転とされ、緩行は綾瀬から地下鉄千代田線に直通し、103系による車両近代化も進められ、輸送改善に大きな期待が持たれた。ただし、他線とは事情が異なり常磐線の場合は北千住—綾瀬間の緩行が営団線となり、快速は綾瀬を通過するため一部の駅では利便性が損なわれ、開通当初は「迷惑乗り入れ」などと批判が沸き起こり話題となった。運輸営業面でも特殊な取扱いが実施された。複々線化から50年、現在もその改善がなされているとは言い難いが、JR発足後は車両も様変わりし、運行形態も変貌して、東京圏の通勤輸送網の一端を担い、日々の足として重要な役割を果たしている。

TETSUDŌTOSHO KANKŌKAI  
Mehrlight Ochanomizu Bldg., Kanda  
Ogawamachi 3-8 Chiyodaku, Tokyo/Japan